

知的障害特別支援学級の教育内容・方法等に関する全国調査（中学校）【A3 印刷】

○管理職による承諾確認⇒管理職氏名・承諾日付を入力していただきます

○学校及び回答者について

- ・学校名、学校電話番号、学校代表メールアドレス（　　　、　　　、　　　）
 ・回答者年代（　　）：20歳代、（　　）：30歳代、（　　）：40歳代、（　　）：50歳代、（　　）：60歳以上
 ・回答者職名（　　）：主幹教諭、（　　）：指導教諭、（　　）：教諭、（　　）：助教諭、（　　）：講師、（　　）：その他（　　　）
 ・回答者雇用形態（　　）：常勤、（　　）：非常勤
 ・回答者は特別支援教育コーディネーター兼務していますか（　　）：している、（　　）：していない

I. 担任する知的障害特別支援学級の状況等について

1. あなた（回答者）について

1.1. 教員経験年数について数字を記入してください。 現在 () 年目 (令和7年4月1日現在)

1.2. 以下の学びの場での、令和7年4月1日現在の経験年数について数字を記入してください。

1.2.1 特別支援学級（知的障害）の担任としての勤務経験年数 現在（ ）年目

1.2.2 特別支援学校（知的障害）の教員としての勤務経験年数 満（ ）年 （勤務していない場合や1年未満の場合は0をご記入ください）

1. 2. 3 通級担当や他障害種の特別支援学級担任、他障害種の特別支援学校教員としての勤務経験年数 満 () 年 (勤務していない場合や1年未満の場合は0をご記入ください)

1.3. 特別支援学校教諭免許状（知的障害領域）の有無について、下記の中から該当するものを1つ選択してください。

()ア：特別支援学校教諭免許状（知的障害領域）又は養護学校教諭免許状を所持している。（内訳：□専修 □一種 □二種） **【I.1.4へ】**

()イ：現在、認定講習や大学・大学院等で免許取得中である。(内訳：□専修 □一種 □二種)【1.2.1～】

()ウ：今後、免許取得をすることを計画している。【I.2.1～～】

()エ:所持していない。【I.2.1～へ】

1.4. 1.3 でアとお答え頂いた場合、以下の質問にもお答えください。

あなたは当該免許状を、いつの時点で取得しましたか。下記の中から最も該当するものを1つ選んでください。

() ア：大学・大学院在学中に取得した。【I.2.1～～】

() イ：特別支援学級（知的障害）の担任として勤務している期間に取得した。【I.1.5①～】

() ウ：特別支援学級（知的障害）の担任や特別支援学校（知的障害）の教員を経験後、通常の学級担任として勤務している期間に取得した。【I.1.5①②へ】

() エ：特別支援学校（知的障害）の教員として勤務している期間に取得した。【I.1.5②へ】

()オ：通級担当や他障害種の特別支援学級担任、他障害種の特別支援学校教員として勤務している期間に取得した。【1.2.1～へ】

() カ：その他 () **【 I . 2 . 1 ～ ～ 】**

1. 5① 1. 4 でイまたはウとお答え頂いた方に伺います。特別支援学校教諭免許状（知的障害領域）又は養護学校教諭免許状を取得した時点で、知的障害特別支援学級担任の勤務は何年でしたか。

(勤務していない場合や1年未満の場合は0をご記入ください) 満 () 年

1. 5② 1. 4 でウまたはエとお答え頂いた方に伺います。特別支援学校教諭免許状（知的障害領域）又は養護学校教諭免許状を取得した時点で、特別支援学校（知的障害）の教員の勤務年数は何年でしたか。

(勤務していない場合や1年未満の場合は0をご記入ください) 満 () 年

2. あなたが担任している学級の児童生徒や学級集団について

2.1. 担任している学級に在籍している児童生徒は何名ですか。数字を記入してください。 () 名

2. 2. 担任している学級に在籍している児童生徒の人数を、必要な支援の度合いごとに記入してください。（該当する児童生徒がない場合は、「0」をご記入ください）

レベル1…日常生活や学習活動に、いつも1対1の支援を必要とする。 () 名

レベル2…日常生活や学習活動に、時々1対1の支援を必要とする。()名

レベル3…日常生活や学習活動に、学級全体への指示の中で声掛けを必要とする。()名

レベル4…日常生活や学習活動に、ほとんど支援を必要としない。 () 名

【アンケート回答方法】

・貴校の知的障害特別支援学級を担任している先生(複数の知的障害特別支援学級が設置されている場合は、学校名簿で最初の学級名の学級を担任されている先生)1名を対象としています。回答に不安がある場合は学校内で内容を検討していただいても構いません。

・アンケートには、単一回答・複数回答のチェックボックス、プルダウン選択、自由記述欄が含まれます。設問を御確認の上、御回答ください。

・原則として、すべての設問に御回答いただけますと幸いです。回答漏れのないように御確認いただけますと幸いです。

- ・所要時間は 40～50 分程度です。

・本アンケートは途中で回答を保存することはできません。また、30分以上操作されないと、自動的に回答がやり直しになる仕様となっております。お手数をおかけしますが事前に調査内容について御確認の上で御回答いただけますと幸いです。

- ・数値を入力する部分は、**半角数字**での入力をお願いします。

2.3. 担任している学級に在籍している児童生徒の障害の種別毎の人数を記入してください。(該当する児童生徒がいない場合は、「0」をご記入ください)

障害の種別	人数
知的障害のみ *	名
知的障害 + 自閉症 **	名
知的障害 + 肢体不自由	名
知的障害 + 聴覚障害	名
知的障害 + 視覚障害	名
知的障害 + 病弱・身体虚弱	名
知的障害 + その他1つの障害	名
知的障害 + 盲ろう***	名
知的障害 + その他2つ以上の障害	名

⇒該当する児童生徒が在籍している場合、その他の障害の具体を児童生徒毎に記入してください
()
⇒該当する児童生徒が在籍している場合、その他の障害の具体を児童生徒毎に記入してください
()

* 知的障害のあるダウン症を含みます。
** 自閉症は、DSM-5-TR で自閉スペクトラム症と呼称され、以前は自閉性障害、アスペルガー症候群、広汎性発達障害などとされた状態を指します。
*** 盲ろうは、視覚と聴覚の両方に障害がある状態を指します。

3. 1人1台端末の整備状況と使用状況について

3.1. 担任している学級で児童生徒が使用しているタブレット端末について、下記の中から該当するものを全て選択してください。

- () ア：Microsoft Windows OS 搭載の端末（Surface 等）
- () イ：Google Chrome OS 搭載の端末（Chromebook 等）
- () ウ：iPad OS 搭載の端末

3.2. タブレット端末の活用について、下記の中から該当するものを全て選択してください。

- () ア：教科の学習において日常的に活用している。【Ⅰ.3.3①へ】
- () イ：自立活動の学習において日常的に活用している。【Ⅰ.3.3②へ】
- () ウ：コミュニケーションの困難さを支援するために日常的に活用している。【Ⅱ.1.1～へ】
- () エ：アクセシビリティ機能を日常的に活用している。【Ⅱ.1.1～へ】
- () オ：入出力支援装置を日常的に活用している。【Ⅱ.1.1～へ】
- () カ：タブレット端末を日常的に家庭等へ持ち帰って活用している。【Ⅱ.1.1～へ】
- () キ：その他 () 【Ⅱ.1.1～へ】

3.3. ① 3.2. でアとお答え頂いた方に伺います。具体的な活用の場面について下記の中から該当するものを全て選択してください。

- () ア：児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）
- () イ：児童生徒が自分の考えをまとめ発表・表現する場面
- () ウ：教師と児童生徒がやりとする場面
- () エ：児童生徒同士がやりとりする場面
- () オ：児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面
- () カ：その他 ()

3.3. ② 3.2. でイとお答え頂いた方に伺います。具体的な活用の場面について下記の中から該当するものを全て選択してください。

- () ア：児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）
- () イ：児童生徒が自分の考えをまとめ発表・表現する場面
- () ウ：教師と児童生徒がやりとする場面
- () エ：児童生徒同士がやりとりする場面
- () オ：児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面
- () カ：その他 ()

Ⅱ. 個別の指導計画・個別の教育支援計画等の作成等について

1. 児童生徒の実態把握について

1.1. 児童生徒の実態把握の方法としてどのようなことを行っているか、下記の中から該当するものを全て選択してください。

- () ア：行動観察をする。
- () イ：これまでの指導の記録を確認する。
- () ウ：自校で作成したチェックリスト等を用いる。
- () エ：市区町村教育委員会等で作成したチェックリスト等を用いる。
- () オ：発達検査や知能検査等の結果を活用する（外部機関で実施した検査の結果を含む）。
- () カ：他の教員から指導の様子について情報収集する。
- () キ：医療などの関係機関から得られた情報について収集する。
- () ク：保護者から家庭等での様子について情報収集する。
- () ケ：その他（)

1.2. あなたは知的障害のある児童生徒の実態把握に関し、課題や困難を感じていますか。

- () ア: はい **【Ⅱ.1.3～へ】** () イ: いいえ **【Ⅱ.2.1～へ】**

1.3 1.2 でア「はい」を選択した場合、下記の中から該当するものを全て選択してください。

- () ア：発達検査や知能検査の所見を指導に生かすこと
() イ：知的障害の程度が重度の児童生徒の実態把握
() ウ：知的障害の程度が比較的軽度の児童生徒の実態把握
() エ：いわゆる「問題行動」や気になる行動の原因や、その対応策を探るための実態把握
() オ：その他()

2. 個別の教育支援計画について

2.1. 個別の教育支援計画の様式について、下記の中から該当するものを1つ選択してください。

- () ア：校内で作成した様式を使用している。
- () イ：中学校区で作成した様式を使用している。
- () ウ：区市町村教育委員会で作成した様式を使用している。
- () エ：都道府県教育委員会で作成した様式を使用している。
- () オ：その他 ()

2.2. 個別の教育支援計画の活用について、下記の中から該当するものを全て選択してください。

- () ア：個別の指導計画の作成に活用している。
- () イ：年間指導計画の作成に活用している。
- () ウ：関係機関のネットワーク形成に活用している。
- () エ：進級や進学時、卒業時に一貫した支援を行うための引継ぎ資料として活用している。
- () オ：校内委員会などの資料として活用している。
- () カ：長期的な視点に立った教育内容の充実のために活用している。
- () キ：その他 ()

2.3. 個別の教育支援計画を見直す・検討する時期について、下記の中から該当するものを全て選択してください。

- () ア：単元計画が終了するごとに確認している。
- () イ：月ごとに確認している。
- () ウ：2～3か月（3学期制における各学期）ごとに確認している。
- () エ：半年（2学期制における各学期）ごとに確認している。
- () オ：年度末ごとに確認している。
- () カ：特に確認していない。

3. 合理的配慮について(*2016年4月施行、2024年6月改正「障害者差別解消法」に基づく合理的配慮)

参考資料 <https://www.gov-online.go.jp/article/202402/entry-5611.html>
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/mext_02599.html

3.1. 合理的配慮の提供に関する保護者との合意形成について、下記の中から該当するものを1つ選択してください。

☐ ア：保護者からの合理的配慮の申出があった場合には、過度な負担がない場合、基本的にその内容を提供している。【Ⅱ.3.2～へ】

☐ イ：保護者からの申出に対して、学校側から可能な合理的配慮の内容について提案し、合意形成を図っている。【Ⅱ.3.2～へ】

☐ ウ：学校側から合理的配慮の提供について保護者に提案し、その内容について合意形成を図っている。【Ⅱ.3.2～へ】

☐ エ：通常の支援として位置づけているため、合理的配慮としての合意形成は行っていない。【Ⅱ.4.1～へ】

☐ オ：その他（）【Ⅱ.3.2～へ】

3.2. 3.1でア・イ・ウ・オを選択した場合、合理的配慮の提供をどのような場面でやっているか、下記の中から該当するものを全て選択してください。

☐ ア：交流及び共同学習の時に交流学級内で提供している。

☐ イ：学校行事の時に提供している。

☐ ウ：特別支援学級内で提供している。

☐ エ：その他（）

3.3. 合理的配慮の提供内容は主にどのようなものか、下記の中から該当するものを全て選択してください。

☐ ア：学習内容の変更・調整

☐ イ：人的配置

☐ ウ：教材の工夫

☐ エ：環境の調整

☐ オ：その他（）

3.4. 差し支えなければ、提供している合理的配慮の内容の具体例をお書きください。

3.5. 合理的配慮の提供内容を個別の教育支援計画に記述していますか。

☐ ア：はい

☐ イ：いいえ

4. 個別の指導計画について

4.1. 個別の指導計画の作成について、下記の中から該当するものを1つ選択してください。

☐ ア：各教科に関する個別の指導計画のみ作成している。

☐ イ：自立活動に関する個別の指導計画のみ作成している。

☐ ウ：各教科と自立活動に関する個別の指導計画を同一様式で作成している。

☐ エ：各教科と自立活動に関する個別の指導計画を別の様式で作成している。

4.2. 個別の指導計画の作成に際し、難しいと感じることについて、下記の中から該当するものを全て選択してください。

☐ ア：個別の指導計画の作成に向けた実態把握

☐ イ：年間を見通して実態に応じた目標を立案すること

☐ ウ：目標に応じた具体的な手立ての設定

☐ エ：個別の指導計画を年間指導計画の作成に生かすこと

☐ オ：個別の指導計画の内容を踏まえた単元・授業の計画

☐ カ：個別の指導計画の内容を踏まえた単元・授業の実施

☐ キ：個別の指導計画の内容の情報共有や校内体制づくり

☐ ク：個別の指導計画の目標に沿った評価

☐ ケ：設定した支援内容や手立ての見直し

☐ コ：個別の指導計画の評価を次年度の作成に活かすこと

☐ サ：保護者との合意形成

☐ シ：その他（）

5.3. 国語・算数・数学の授業で、下記の中から用いている教科書（学校教育法に規定する「教科用図書」という）や教材・教具について、下記の中から該当するものを全て選択してください。また、「ク：その他」を選択した場合、具体的な教材・教具等を記入してください。

国語			算数・数学	
()	ア：通常の学級で使用している検定済教科書	()	ア：通常の学級で使用している検定済教科書	
()	イ：知的障害者用の文部科学省著作教科書（※いわゆる☆本）	()	イ：知的障害者用の文部科学省著作教科書（※いわゆる☆本）	
()	ウ：上記のイを除く、学校教育法附則 9 条に規定する教科用図書（※特別支援学級で利用できる検定教科書以外の図書のこと。旧学校教育法第 107 条に規定され、通称「107 条本」と呼ばれていた一般図書をもって教科用図書とすること。）	()	ウ：上記のイを除く、学校教育法附則 9 条に規定する教科用図書（※特別支援学級で利用できる検定教科書以外の図書のこと。旧学校教育法第 107 条に規定され、通称「107 条本」と呼ばれていた一般図書をもって教科用図書とすること。）	
()	エ：市販のパソコンソフトウェア等のデジタル教材	()	エ：市販のパソコンソフトウェア等のデジタル教材	
()	オ：上記エ以外の市販の教材・教具	()	オ：上記エ以外の市販の教材・教具	
()	カ：自作のパソコンソフトウェア等のデジタル教材	()	カ：自作のパソコンソフトウェア等のデジタル教材	
()	キ：上記カ以外の自作の教材・教具	()	キ：上記カ以外の自作の教材・教具	
()	ク：その他【具体的な教材・教具等】 ()	()	ク：その他【具体的な教材・教具等】 ()	

5.4. 単元や題材等における学習評価にあたり、次のア～エの項目はどの程度、難しいと感じているか、下記の中から該当するものをそれぞれ1つずつ選択してください。

	選択肢					
	とてもそう思う	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	全くそう思わない
ア：知的障害のある児童生徒に適した評価規準の設定が難しい						
イ：どのような評価方法がよいか決めるのが難しい						
ウ：学習評価の結果の妥当性の判断が難しい						
エ：学習評価の結果を次の指導の改善につなげるのが難しい						

5.5. 単元や題材等の内容や時間のまとまりを見通した学習評価を実施していますか。下記の中から該当するものを1つ選択してください。

- () ア 全ての単元等で実施している。
() イ ほとんどの単元等で実施している。
() ウ 教科等によって実施している。
() エ あまり実施していない。
() オ 全く実施していない。

5.6. 単元や題材等を見通した、学習評価の計画を立案していますか。下記の中から該当するものを1つ選択してください。

- () ア 全ての単元等で立案している。
() イ ほとんどの単元等で立案している。
() ウ 教科等によって立案している。
() エ あまり立案していない。
() オ 全く立案していない。

5.7. 個別の指導計画の見直しに学習評価は連動していますか。下記の中から該当するものを1つ選択してください。

- () ア 連動している。
() イ 連動していない。

5.8. 年間指導計画の改善に、個別の指導計画における評価は連動していますか。下記の中から該当するものを1つ選択してください。

- () ア 連動している。【Ⅲ.1.1 へ】
() イ 連動していない。【Ⅱ.5.9 へ】

5.9. 5.8. でイ「連動していない」を選択した場合、連動していない要因や連動させる上での難しさについてお書きください。

()

3. 4. 交流学級の児童生徒に対して、交流及び共同学習の事後学習を行っているか、下記の中から該当するものを1つ選択してください。

ア：毎回、実施後に行っている。【Ⅲ. 3. 5 〜】

イ：適宜、時期をみて行っている。【Ⅲ. 3. 5 〜】

ウ：交流及び共同学習の内容に応じて適宜行っている。【Ⅲ. 3. 5 〜】

エ：その他（）【Ⅲ. 4. 1 〜】

カ：全く行っていない。【Ⅲ. 4. 1 〜】
3. 5.

3. 4でア及びイ、ウを選択した場合、下記の問いにもお答えください。

交流学級の児童生徒に対して、交流及び共同学習の事後学習は、どのようなことを行っていますか。下記の中から該当するものを全て選択してください。

ア：感じたことや気付いたことの振り返り

イ：障害理解に関わること

ウ：人権教育に関わること

エ：特別支援教育に関わること

オ：特別支援学級や通級による指導など、多様な学びの場に関わること

カ：共生社会に関わること

キ：インクルーシブ教育システムに関わること

ク：その他（）
4. 交流及び共同学習において付き添いを行う教員や特別支援教育支援員の数と週時間数
4. 1. 特別支援学級担任が交流及び共同学習に付き添っていますか。

ア：毎回付き添う。【Ⅲ. 4. 2 〜 〜】

イ：必要に応じて適宜付き添う。【Ⅲ. 4. 2 〜 〜】

ウ：付き添わない。【Ⅳ. 1. 1 〜 〜】
4. 2.

4. 1でアまたはイを選択した場合、特別支援教育支援員が交流及び共同学習に付き添っている場合、付き添いを行う支援員全員の数を記入してください。

（）人
4. 3.

4. 1でアまたはイを選択した場合、特別支援教育支援員が交流及び共同学習に付き添っている場合、支援員全員の週時間数の合計時間数を記入してください。

週（）時間

Ⅳ. 貴校の状況や体制等について

1. 貴校の学級数や児童生徒数等について
1. 1. 貴校の学級数および在籍する児童生徒数（令和7年5月1日現在）について、学籍に基づき表に記入してください。通常の学級の人数には、特別支援学級在籍で交流している児童生徒の人数は含めないでください。

	学級数	在籍者数
通常の学級	学級	名
知的障害特別支援学級	学級	名

1. 2. 昨年度（令和6年度）の知的障害特別支援学級全体の卒業生の進路について人数を記入してください。

（全日制） 高等学校	（定時制） 高等学校	（通信制） 高等学校	特別支援学校 （高等部）	教育訓練期間等			就職	社会福祉施設等 （入所）	社会福祉施設等 （通所）	在宅	その他 （具体的にお書きください）	R6年度 卒業生数
				専修学校	各種学校	職業能力開発校・障害者職業能力開発校						
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名 具体： （ ）	名

1. 3. 貴校の知的障害特別支援学級に在籍する児童生徒について教えてください。
「自分の体を叩いたり食べられないものを口に入れる、危険につながる飛び出しなど本人の健康を損ねる行動、他人を叩いたり物を壊す、大泣きが何時間も続くなど周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態」にある児童生徒はいますか。
() ア：いる **【IV. 1. 4 へ】** () イ：いない **【IV. 2. 1 へ】**

1. 4. 1. 3. でア「いる」を選択した場合、下記の問いにもお答えください。
その児童生徒の具体的な状態について、下記の中から該当するものを全て選択してください。
() ア：大声・奇声を出す
() イ：異食行動
() ウ：多動・行動停止
() エ：不安定な行動
() オ：自らを傷つける行為
() カ：他人を傷つける行為
() キ：突発的な行動
() ク：過食・反すう
() ケ：その他 ()

2. 教育課程について

2. 1. 貴校の知的障害特別支援学級に在籍する中学 1 年・2 年・3 年の中から、名簿で最初の生徒を各 1 名（A さん、B さん、C さん）選び、以下の設問にお答えください。
それぞれの生徒に対して、教育委員会に届け出ている教育課程について、下記の選択肢から該当するものを1 つ選択してください。
また、イを選択した場合、「国語」「数学」においてどの学年相当の内容を扱っているか、該当する学年を数字で記入してください。

	学年	教育課程	イを選択した場合、どの学年相当の内容を扱っているか	
			国語	数学
例	3	イ	2 学年	3 学年
A さん	1		小 or 中 ____ 学年	小 or 中 ____ 学年
B さん	2		小 or 中 ____ 学年	小 or 中 ____ 学年
C さん	3		小 or 中 ____ 学年	小 or 中 ____ 学年

教育課程について
ア：通常の学級における当該学年の各教科等を中心に編成している。
イ：通常の学級における下学年の各教科等を中心に編成している。
ウ：知的障害特別支援学校の各教科等を中心に編成している。
エ：自立活動を中心に編成している。
オ：該当する児童は在籍していないので回答できない

3. 引継ぎについて

3. 1. 次の学年への進級時の児童生徒の引継ぎの資料はどのようなものを用いるか、下記の中から該当するものを全て選択してください。
() ア：個別的教育支援計画
() イ：個別の指導計画
() ウ：学校で作成した引継ぎ用の資料（支援引継ぎシート等）
() エ：その他 ()
() オ：特に決まった資料はない

3. 2. 進学先の学校へ、児童生徒に関する情報共有についてどのような機会を設けているか、下記の中から該当するものを全て選択してください。
() ア：進学する学校の教員と個別の会議を設けている。
() イ：進学する学校との組織的な会議（連携会議等）の場を設けている。
() ウ：進学する学校に児童生徒に関する資料（個別的教育支援計画等）を送付している。
() エ：進学する学校に電話で児童生徒の様子を伝えている。
() オ：進学する学校の教員に学校へ来てもらい、児童生徒の様子を見学してもらっている。
() カ：進学する学校で授業（体験入学・交流会等）を実施してもらい、その様子を踏まえながら情報を伝えている。
() キ：その他 ()
() ク：特に行っていない。

3. 4. 小学校から進学する際に、生徒に関する情報についてどのように機会を設けて共有しているか、下記の中から該当するものを全て選択してください。
- () ア：在籍していた小学校の担当者と個別の会議を設けている。
- () イ：在籍していた小学校との組織的な会議（小中連携会議等）の場を設けている。
- () ウ：在籍していた小学校から生徒に関連する資料（個別の教育支援計画等）を貰っている。
- () エ：在籍していた小学校に電話で生徒の様子を聞いている。
- () オ：入学前に、在籍している小学校に行き、生徒の様子を見学している。
- () カ：中学校で授業（体験入学・交流会等）を実施し、その様子を観察する。
- () キ：特に行っていない。
- () ク：その他（)

4.1. 貴校において、知的障害特別支援学級を担任している全ての教員数について記入してください。
知的障害特別支援学級担任教員の人数（ ）名（うち、特別支援教育コーディネーター兼務者（ ）名、非正規教員（ ）名）

- 4.3. 4.2 でア「はい」を選択した場合、以下の問いにもお答えください。

特別支援教育支援員等の人数 () 名
知的障害特別支援学級での延べ勤務時間数 (週 時間)

5.2. 5.1でア「はい」を選択した場合、以下の問いにもお答えください。

なお、講師の所属については、右記の選択肢からお選びください。

ア：特別支援学校 イ：教育委員会や教育センター ウ：関係機関（児童相談所等）
エ：大学 オ：校内の職員（特別支援教育コーディネーター等） カ：その他

